冬号 No.44

十全ユリノキ病院ニュース●2020.1.30発行《年4回発行》

こころ

あたたかい心、思いやりの心、私達は心の医療を推進します。

十全ユリノキ病院

精神科応急入院指定病院

〈理念〉

一. 私達は、前向きで建設的に考えよう。
一. 私達は、開かれた医療を展開して行こう。
一. 私達は、自ら学び、研鑽し続けよう。

〈基本方針〉

1. 思いやりある、利用者中心の医療を目指す。
2. 過不足のない支援で、社会復帰を促進する。
3. 働き甲斐のある、職場を創り出す。

季節のしゃしん
「冬の日差しと雄大な山々」

予測して対応することの大切さ

理事長　太田　純二

暴走した車に轢かれ妻と3歳の娘を失った夫の記者会見を見た人は多いと思います。本当に残念な出来事でした。私の場合、加害者にもなる可能性も含め他人事とは思えませんでした。車の運転、基本は減速、ブレーキが第一。ハンドルで危険回避できるのは、プロのレーサーだけです。

今回の水害等で分かった事は、電気と水がないと我々は情報とトイレに苦労する。十全総合病院では、何時停電になっても、手術が続けられる様にと、発電機が設置されています。安心して下さい。十全ユリノキ病院でも、食糧は4日分と薬は2か月分確保されています。但し7日分の簡易トイレはありません。男子は国領川で用を足す、かね？冗談ですよ。新棟に軽油の発電機と井戸水を汲み上げるポンプとその配管が必要です。芸予地震は必ずやってくる。

地震の恐ろしい所は、前触れなく突然やって来て、その後の火災、津波、都市機能が麻痺する。神戸では、早朝に発生して、道路が破壊され助けが呼べない。生き埋めになると、3日間が生存限界時間となる。東日本の地震では、想像をはるかに超えた光景が放送された。津波を経験した事のない私は、始め何が家を流しているのか？ 理解できなかった。地震の対策はともかく、津波の対策は高台に移るしかないらしい。今から建築する人は高台にどうぞ！

今回の水害は前もって危険の予測はある程度可能ではあるが、変な言い方ではあるが、被害は平等に起こるとは限らない。訳ありで堤防が十分で無い所の氾濫。通常の7倍もダムが放流すれば、下流は必ず氾濫する！ 情報を集めることも大切だが、家を捨てて大切な人と安全なホテルへ避難する事を勧めます。命を守る行動です。命があれば再出発できます。災難を躱す為には、大胆な発想の転換が必要になります。危険を予測してどう対応するかは、自由です。しかし家族の命は自分が守らないと、他人は守ってはくれません。前もって対応しておくことも、大切です。一度、他人事と考えず、真剣に想定し考えてみて下さい。

地域医療を支える 私の街のお医者さん紹介

せいだ循環器内科

理事長　清田　正夫

昭和55年8月有床診療所として開院された「せいだ循環器内科」をご紹介します。

せいだ循環器内科は、高血圧といった身近な疾患に対する診療をはじめ、虚血性心疾患などの循環器・内科の医療を提供しています。

新居浜市全体の患者さんを診療されており、理事長の清田先生は、新居浜市医師会の理事もご歴任されました。風邪やインフルエンザといった身近な疾患にも積極的に対応されている医院です。

清田正夫先生より一言

人口の3分の1は高血圧症であり、良好にコントロールされているのはその内、3分の1にすぎません。3分の2は管理不良者です。その原因としては高血圧患者の自覚症状が軽いからだと思います。

しかし放置していますと、心不全、動脈硬化症、認知症を発症します。認知症の患者さんは十全ユリノキ病院の先生方に大変お世話になっております。

将来、がんはコントロールされるように思いますが、原因不明の心不全、認知症は急増しています。これ迄以上に病診連携を深めて、患者さんの役に立ちたいと考えております。

住所：〒792-0033 愛媛県新居浜市横水町2番51号
TEL：0897-40-1717

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
8:30～12:30	●	●	●	●	●	●	休
14:00～18:00	●	●	●	休	●	休	休

休診：木曜・土曜午後、日曜祝祭日

■ 所在地のご案内

■ 交通のご案内

JR新居浜駅より南　約5km
〈市内バス〉　山根グランドバス停より徒歩……約10分
〈タクシー〉　JR新居浜駅より……約10分
〈車〉　新居浜ICより西 約2km ……　約3分

2020・1・1000

VEGETABLE OIL INK
環境負荷を抑えた植物油インキと適切に管理された森林から生産された紙を使用しています。

編集後記

第44回目となる広報誌「こころ冬号」を発刊いたしました。

新春を迎え、皆さまにおかれましては健やかに新年を迎えられたことと、心よりお喜び申し上げます。本年もよろしくお願いいたします。

今年はオリンピックイヤーです。世界中のトップレベルのアスリートが日本にやってきます。4年に1度の祭典、今から楽しみです。

十全ユリノキ病院
Juzen Yurinoki Hospital
〒792-0844 愛媛県新居浜市角野新田町1-1-28
TEL0897-41-2222 FAX0897-41-2224
http://www.juzenhp.jp/
E-mail juzen@juzenhp.jp

関連施設

◎生活のしづらさをもつ患者さまの社会参加と社会復帰をお手伝いしています。
自立訓練（生活訓練・宿泊型訓練）事業所国領荘　愛媛県新居浜市角野新田町1-1-28 TEL0897-41-2258

◎単身生活が困難な患者さまの生きがいをもった自立への道を援助しています。
グループホーム船木の里　愛媛県新居浜市国領甲4819-5 TEL0897-41-2258

◎患者さまのご家庭に伺い、療養上のお世話・援護を行っています。
訪問看護ステーションれんげの会　愛媛県新居浜市角野新田町1-1-28 TEL0897-43-5653

◎生活に関する相談や福祉サービスの紹介などを行っています。
指定相談支援事業所まごころの会　愛媛県新居浜市角野新田町1-1-28 TEL0897-47-6682

◎お年寄りの生活にふさわしい環境の中で共同生活を行い、生活能力の回復と維持を図っています。
グループホームむつみの家　愛媛県新居浜市中萩町9-52 TEL0897-43-1022

こころの交流会

2019年11月18日㈪新棟外来ホールにて新田保育園さまとの『地域の皆さまと十全ユリノキ病院 こころの交流会』を開催いたしました。

年中さん24名、年長さん21名の計45名の園児さんに、バルーンと鳴子を使った元気いっぱいのお遊戯をご披露いただきました。

その後は、患者さんと園児さん合同の玉入れレクリエーションを行い大いに盛り上がり、最後に患者さんからはお菓子を、新田保育園の皆さんからは花束と手作りのペンダントを贈りあいました。

元気いっぱいの園児さんとの交流は、患者さん、スタッフ共にとても楽しいひと時となりました。

新田保育園の皆さまありがとうございました!!

クリスマス会

2019年12月25日㈬ 14:00から、当院外来ホールにて、『地域の皆さまと十全ユリノキ病院 こころのクリスマス会』を開催いたしました!

今回も角野中学校の合唱部と生徒会役員の方にご参加いただき、合唱とダンスを披露していただきました。合唱部の皆さんの合唱では、澄み渡る歌声に参加された患者さんだけでなく、来院された方やスタッフも聴き入る様子でした。生徒会役員の皆さんのダンスは、若さ溢れるメリハリのある動きに拍手が沸き起こりました。

患者さん、スタッフ共に、素敵なクリスマスとなりました。角野中学校の皆さまありがとうございました!!

角野校区文化祭に参加しました！

2019年11月10日㈰、角野公民館で『第59回 角野校区文化祭』が開催されました。角野校区の小学生をはじめとした校区住民の方々の文化活動が発表される中、焼きそば模擬店で参加させていただきました。

天候にも恵まれ、焼きそばも完売し大盛況で終えることが出来ました。今後もこういった地域の方々と交流ができる場を大切に、活動を続けていきたいと思います。

第❸回 ユリノキ研修会を開催しました。

2019年11月30日㈯ 愛媛県総合科学博物館にて「第3回ユリノキ研修会」を開催し、100名を超える参加者にお集まりいただきました。この研修会は認知症の方にかかわる関係職員向けの研修会で、今年で3回目となります。

今年は「骨粗鬆症と骨脆弱性骨折の実際～多職種連携の時代～」をテーマに、十全総合病院整形外科部長松尾真嗣先生を講師としてお招きし、高齢者に多い「骨脆弱性骨折」や「骨粗鬆症」の予防や治療の大切さについてご講演いただきました。

「骨粗鬆症」は①骨強度の低下、②骨折リスクの増大をもたらす疾患と位置付けられているそうです。高齢者に多い大腿骨の骨折は、骨折から寝たきりになったり、大きな機能障害を残すと言われており、決して軽視できる病気ではありません。骨折後の5年生存率が約60%と言われており、これは全がんの5年生存率58%と同じ割合とも言われているそうです。そのため骨折予防として、骨粗鬆症の治療を継続していくことはとても重要であるというお話でした。高齢者の中には認知症になる方も多く、認知症により治療やリハビリが思うように進まないなどのリスクもあるため、日ごろから「骨折を予防する」事が大切です。

第2部のシンポジウムでは、理学療法士や管理栄養士、看護師等の立場から「高齢者の骨折をいかに防ぐか」をテーマに、各施設での取り組みや対応時の工夫についてのお話があり、ご参加いただいた方々には、有意義な時間を過ごしていただけたのではと思っています。

受診に関するご相談は(0897)47-6681
認知症疾患医療センター 十全ユリノキ病院　まで

院内学会を開催しました！

2019年11月9日㈯に第29回院内学会を開催し、全部で5題の発表がありました。看護部からは『退院』に焦点を置いた「長期入院から退院に向けての取り組みについて」や「退院時の患者満足に関すること」という題で発表がありました。

昨今の在宅医療の推進政策へ順応していく上で、大変重要な題材となり、参加者は熱心に聞き入る様子でした。看護部以外の部門からは3題の発表があり、それぞれの専門性が生かされた内容でした。

発表後は活発に質疑応答が交わされ、参加者各々にとって実りある時間になったかと思います。

愛媛県緩和ケア推進事業へ参加しました!

2019年12月21日㈯、四国がんセンターにおいて、『認知症のある患者・家族のケアと意思決定支援』について講演がありました。

当日は30名の定員のところ、80名近くの参加があり、急遽会場が変更になるなど、本テーマが強い関心を寄せるものであることがうかがえました。

当院からは3名が講師として参加し、武田院長からは、他職種の参加者が分かりやすいよう、認知症の定義や疫学・統計について触れた上で、認知症の分類ごとの特徴や薬物治療について説明がありました。認知症治療病棟の髙橋師長、重度認知症デイケアの尾崎係長からは、認知症患者さんへの意思決定に係る支援について事例を挙げ、中でも対応困難な患者さんへの介入方法として、『ユマニチュード』の技法を紹介しました。両名はユマニチュードインストラクターの資格を有しており、ワークショップを通して『ユマニチュード』の4つの柱である「見る」「触れる」「話す」「立つ」など、代表的な技法について紹介しました。

参加者からは「貴重な体験となった」などの感想が寄せられました。